

ドイツにおける母親支援 –地域の母親プロジェクトの事例から–

Support for mothers with a migrant background in Germany:
A Case study of neighbourhood mothers

大津真実 (大阪大学大学院言語文化研究科)

Mami OTSU (Graduate School of Language and Culture, University of Osaka)

キーワード：ドイツ 移民統合政策 母親 就労支援 教育支援

1. 研究背景と研究目的

近年、ドイツ社会では移民女性に対する関心が高まっている。彼女たちの職業資格の取得率や就業率の低さについては政治の場やメディアで頻繁に取り上げられ、移民女性への政策的支援が求められてきた。なかでも家族・社会政策の観点では、とりわけシングルマザーが社会保障制度に依存せず安定した収入を得られることや、このことが同時に子どもにとっての方向づけ・支援機能を果たす (Henkel et al., 2016) という点から、移民の母親への就労支援が展開されてきた。また、移民の学校・職業教育における機会の不平等の改善を目的に、母親を対象としたドイツ語コースも行われている。

このように、これまで就労や言語支援を中心に移民家庭に対する統合政策が全国的に実施されてきたが、昨今、移民による移民支援という循環型の取り組みが積極的に進められている。なかでもベルリン市を中心にドイツ全土で展開される「地域の母親 (Stadtteilmütter) プロジェクト」(以下、StM プロジェクト) は移民家庭への就労・育児支援であるが、ドイツ社会への窓口としての機能に注目が集まっている。統合の担い手として注目が高まる母親は、ドイツ社会の支援を受けていかに変化し、子どもの教育に影響を与えているのか。本発表では StM プロジェクトのこれまでの成果を整理し、母親の雇用対策や育児 (教育) 支援としての意義、およびプロジェクトの課題について明らかにすることを目的とする。

2. StM プロジェクト

StM プロジェクトは育児負担を抱える移民家庭の孤立や子どものドイツ語能力不足等、地域の諸問題への対策として発案された。2004年にベルリン市ノイケルン区でモデルプロジェクトとして誕生したが、今やドイツ全土で実施され、近隣諸国にも影響を与えている。本発表はプロジェクト誕生地であるノイケルン区の StM プロジェクトに限定し、行った調査に基づいている。

StM プロジェクトは移民家庭の社会参画を促す多目的の就労・育児 (教育) 支援である。無職の母親が子育て・教育・健康に関するテーマで半年間の研修を受け、研修後の試験に合格すると「地域の母親」として移民家庭に従事し、5年間の雇用契約をジョブセンター (職業安定所) と結ぶ (= 就労支援)。プロジェクトの中心的な活動でもある家庭訪問では、「地域の母親」が居住地域内の移民家庭を訪問し、母語で子育てに関する相談にのり、保育施設や学校の情報を提供する (= 育児・教育支援)。

3. 研究方法

ノイケルン区における StM プロジェクトを対象に、プロジェクト担当機関をはじめとする関係諸機関の発行する報告書や評価書、および 2019年8月にベルリン市で行った現地調査に基づき分析を行った。

現地調査ではプロジェクト実施機関の担当者や行政職員、プロジェクト参加者にインタビュー調査を実施した。また、「地域の母親」の諸活動に同行し、プロジェクトに関連する会議等にも陪席した。

4. 研究結果と考察

StM プロジェクトは母親の就労を促進するだけでなく、子どもの教育機会の改善にも貢献している。雇用対策に関しては、母親の就労者としての意欲や責任感の向上、およびプロジェクトの活動に準じた分野での就職（保育士やソーシャルワーカー等）が挙げられる。プロジェクト終了後には再び無職となる事例もあったが、現在は進路相談等の就職支援も行われている。本プロジェクトは育児・教育支援としても有効に作用している。プロジェクトを通して支援家庭の子どもの保育施設への入所が進んだことはこれまでも指摘されてきたが、プロジェクト責任者へのインタビュー調査では、プロジェクトに参加する家庭でも、職業教育を受ける者や大学進学者の増加が明らかにされた。

プロジェクトを成功に導いた鍵は同郷の女性による支援という点にある。ドイツでは、特にイスラーム系のエスニック・コミュニティがドイツ社会とは交わらない、閉鎖的な社会空間を形成すると批判されてきた。しかし、本プロジェクトではムスリム女性が参加者の大半を占め、コミュニティという資源を有効活用することができる。つまり、支援者と被支援者が言語や文化を共有でき、ドイツ社会から取り残されている家庭にもこれまで以上のアプローチが可能となった。「統合」とは移民とドイツ社会のインタラクティブなプロセスであることは繰り返し主張されているが、StM プロジェクトは移民自身のみならず、ドイツ社会（教育・行政機関）の変化をも促す。たとえば、「地域の母親」が保育施設や学校をはじめ公的機関と連携することで、当該機関の移民家庭に対する偏見や先入観が取り除かれたという声があがっている（Sülzle et al., 2019）。インタビュー調査では、プロジェクト成立から15年以上が経過し、ドイツ社会からも移民家庭からも次第に受け入れられるようになったと実感する意見もみられた。

就労・育児（教育）支援である StM プロジェクトによって「母親」の役割は強化される。移民の統合政策としても注目される本プロジェクトだが、プロジェクトを通じてむしろ伝統的なジェンダー規範が再生産されるという指摘もある（Marquardt & Schreiber, 2015）。家族全員のドイツ社会への統合を促す存在として注目される母親だが、プロジェクトによっていかなる「母親像」が形成（／強化）されるのか。また、規範ともなる多文化社会ドイツにおける「母親像」とは何か。西欧とイスラームの間で緊張感が高まるなか、性と文化的差異を踏まえ引き続き検討していく必要がある。

参考文献

Henkel, M. / Steidle, H. / Braukmann, J. (auf Basis von Vorarbeiten von Sommer, I.) (2016): *Familien mit Migrationshintergrund: Analysen zur Lebenssituation, Erwerbsbeteiligung und Vereinbarkeit von Familie und Beruf - 2. aktualisierte und überarbeitete Auflage* -, Bundesministerium für Familie, Senioren, Frauen und Jugend.

Marquardt, N. & Schreiber, V. (2015): Mothering urban space, governing migrant women: the construction of intersectional positions in area-based interventions in Berlin. In: *Urban Geography*, 36 (1), 44-63.

Sülzle, A. / Glock, B. / Jörg, S. (2019): *Stadtteilmütterprojekte - Integration mit besonderer Wirkkraft?: vhw – Schriftenreihe 12*. vhw-Bundesverband für Wohnen und Stadtentwicklung e. V.